

## 2022年度 年度評価

### 基礎・基盤的取組

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	<p>第5期中長期計画の2年目であり、それぞれの基礎・基盤的取組みが順調に進められていると評価する。先端研究と技術開発、政策対応研究、知的研究基盤整備がバランスよく含まれ、環境問題を非常に幅広くカバーしており、主要な現在の環境問題、将来の環境問題の解明・解決に資する研究が行われている。基礎・基盤の役割をしっかりと果たしていると評価する。</p> <p>知的研究基盤整備についても重要な貢献をしている。世界のサイエンスをリードできる多くの研究者により他機関の研究者を巻き込む活動も実施しており、この点も評価が高い。</p> <p>分野によっては、学術的な価値よりも、政策対応研究などの社会的価値がある研究・仕事にもエフォートを割いており、政策提言・社会実装促進機関の役割を果たしている。</p> <p>今年度は個別発表がなかった分野にも特筆すべき成果が多く、先見的・先端的な基礎研究としての貢献が大きい。政策対応への連携も努力が払われている。</p>	<p>ご評価くださいますとありがとうございます。引き続き、成果を挙げられるよう研究活動を推進します。</p>
今後への期待など	<p>先見的・先端研究、政策対応研究、知的研究基盤の整備の3項目の区分が明確な分野とそうでない分野があった。それぞれの分野そのものの性質によるものであろうが、無理な記述に見える分野もあった。評価方法にも工夫があれば良い。</p>	<p>ご指摘いただきありがとうございます。今後、成果の説明や評価方法の参考にいたします。</p>

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
	全体の知的基盤整備の中でも生物多様性分野でのデータベースの整備とオープンデータ化の体制は特に優れており、継続を期待する。	データベースについてはこれまでの活動が認められ、文科省ナショナルバイオリソースプロジェクトに今年度から参画することになりました。しっかりと進めていきます。
今後への期待など	国環研が核となり、日本各地でそれぞれの現場に適した適応策が積極的に展開され、今後とも、日本・世界のGX（グリーン・トランスフォーメーション）を推進する研究機関であることを期待する。	新たな視点、忘れてはならない視点からのご指摘ありがとうございます。ご期待に沿えるよう、引き続き努めます。
	人材育成について、長いスパンで落ち着いて研究が出来る環境があると聞いている。若手研究者が自由な発想で研究を進め、それが次のプログラムに育つような研究環境の確保も続けてほしい。	
	基礎・基盤的取り組みも、今後はパンデミックや戦争など当初は想定していなかったような不確実性が定常的になることも想定しながら研究を進めることが求められるかもしれない。不確実性を盛り込む方法論を構築していく方向での研究についても期待したい。	
	一般に広く発信すべき成果も多い。一般市民や政策決定者が不安に思っている問題や誤解されがちな問題について、わかりやすいプレスリリースを期待する。 災害環境分野での地域の若者との対話・学習プログラムは将来にわたる環境研究の継続に大きく貢献するものであり、引き続き力を入れて欲しい。また、「大気拡散モデルの更新・高解像度化」の成果に関しては、福島事故の発生当時問題になった避難情報の発信に今後反映させていくことも検討してもらいたい。	